

大台ヶ原利用者アンケート結果 (平成 15 年度利用実態調査結果)

1. 調査の概要

大台ヶ原来訪者を対象としたアンケート調査を、例年来訪者の多いお盆の時期と秋の紅葉シーズンの 2 度にわたって実施した。その概要は以下に示す通りである。

調査日：平成 15 年 8 月 16 日（土）天候：雨

17 日（日）天候：雨

平成 15 年 10 月 11 日（土）天候：雨

18 日（土）天候：晴

調査場所：駐車場周辺、宿泊施設等

調査形態：調査シートを用いた対面ヒアリング形式、宿泊施設等への留置き形式

有効回答数：全体で 486 票であり、その内訳は下表の通りである。

表 1. 調査手法・調査日別の有効回答数内訳

日程	8 月 16 日・17 日	10 月 11 日	10 月 18 日	計
ヒアリング	156	174	114	444
留置き	12	0	30	42
計	168	174	144	486

2. データの集計・分析

分析は全 4 日のデータをもって総合的に行ったが、一部の項目については、10 月 18 日の調査結果を混雑期のデータとして個別に分析した。

(1) 基本属性

1) 居住地

回答者の居住地を都道府県別に集計すると以下の通りである。

大阪府、奈良県、兵庫県、和歌山県、京都府、三重県、愛知県、滋賀県などの近畿圏あるいは近隣の都道府県からの来訪者が全調査日を通して 90%前後を占めていることが分かる。特に大阪府からの来訪者が毎回 30~40%を占め、最も多い。

関東、中部、北陸、四国、九州からの来訪者の回答も見られるが、ごくわずかに止まっている。「その他」の内訳は、島根県 (5)、神奈川県、岡山県 (4)、千葉県 (3)、大分県、沖縄県、香川県、埼玉県、石川県 (2)、岐阜県、長崎県、福岡県、新潟県、岡山県、静岡県、徳島県 (1) である。

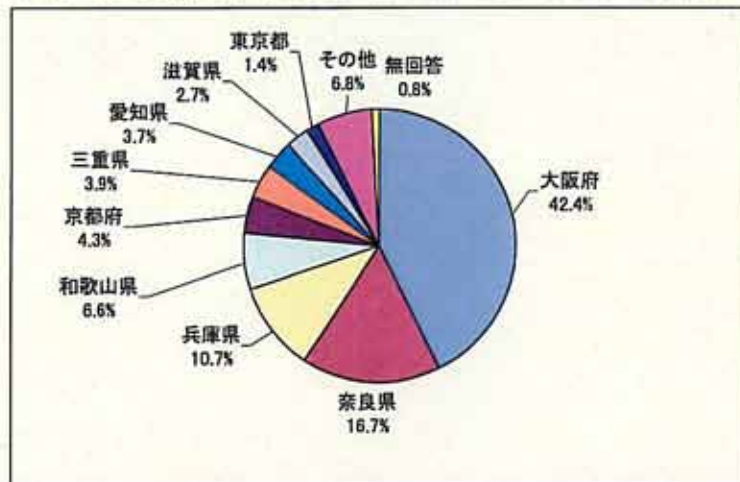


図1 回答者の居住地 (総合)

2) 年齢・性別

回答者の年齢・性別の内訳は以下の通りである。年齢では 50 代の割合が最も多く、なかでも 50 代男性の数が最も多いことが分かった。

回答者の性別の割合は以下の通りで、若干男性の割合が多い。

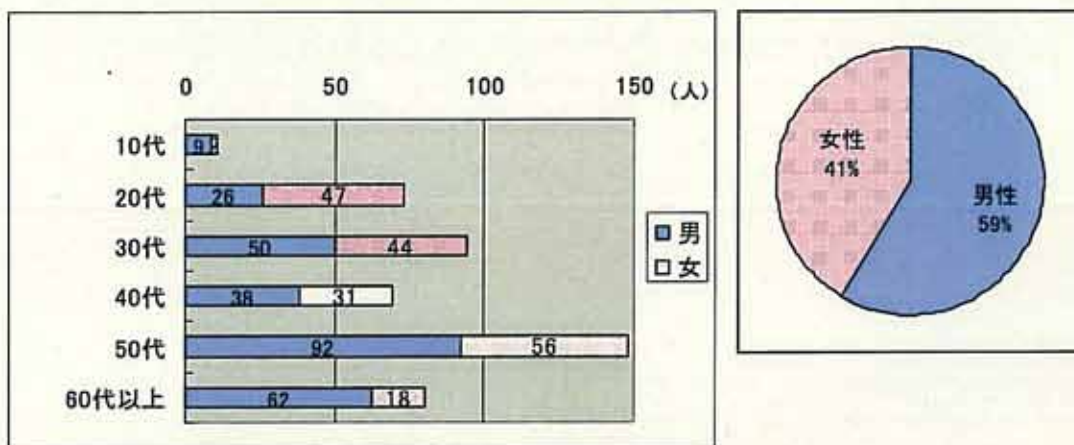


図2-1・2 回答者の年齢と性別 (総合)

(2) 来訪状況

1) 来訪頻度

大台ヶ原への来訪頻度を尋ねたところ、回答者の半数以上がリピーターであった。特に天候にも恵まれた10月18日の回答者ではリピーターが60%を超え、年に何回も訪れる人が16%もある。

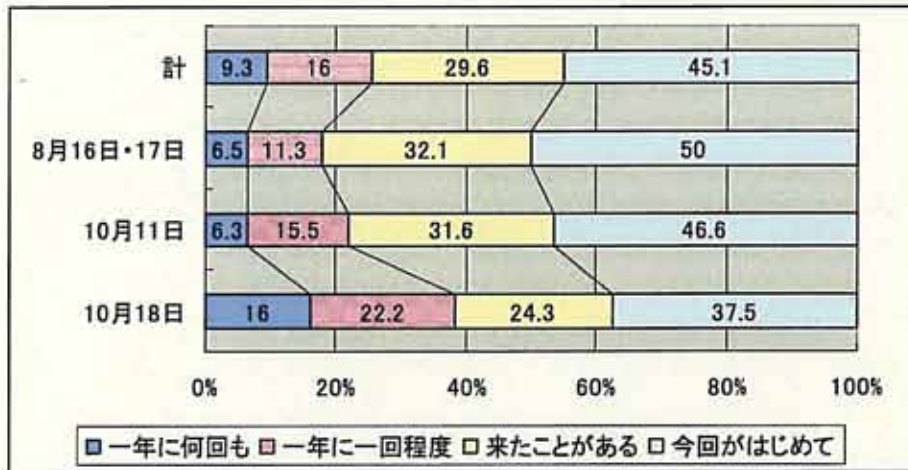


図3 来訪頻度 (調査日別・総合)

2) 宿泊状況

回答者の宿泊予定の有無、宿泊先については、総合的にみると70%以上が宿泊を予定しておらず、日帰り客が多い。宿泊先は大台荘が最も多く、その他の回答では、車中、桃の木小屋などが見られた。

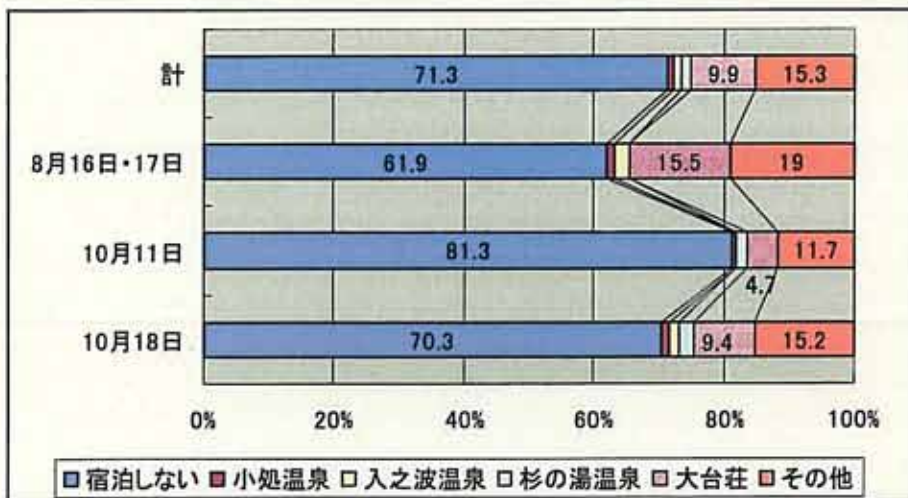


図4 宿泊予定 (総合)

3) 来訪者のグループ構成

来訪の同行者、グループ構成に関しては、家族あるいは友人などのグループの割合が高い。お盆は家族連れ、秋の紅葉シーズンには旅行会社主催のツアー客が多いことが伺える。

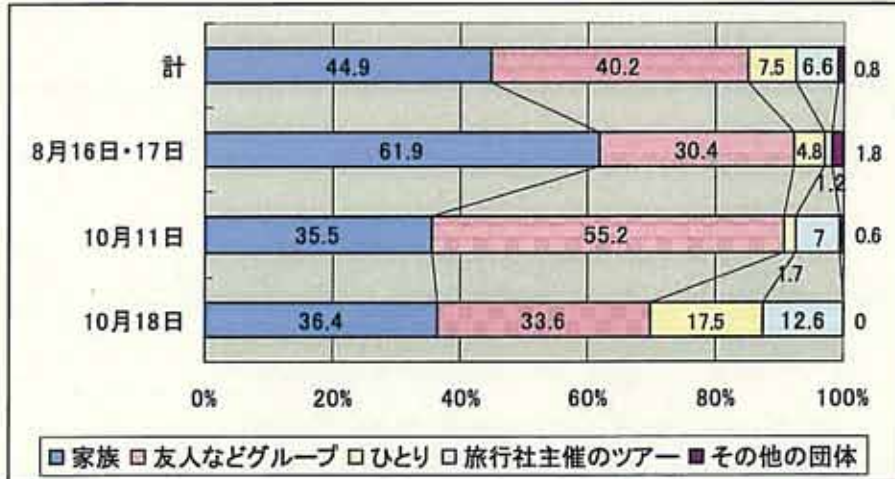


図5 回答者のグループ構成（調査日別・総合）

4) 交通手段

大台ヶ原までのアクセス手段については、各調査日も自家用車によるアクセスが多く、平均して70%強の割合である。次いで多いのは路線バス、観光バスによるアクセスである。秋の紅葉シーズンには観光バスでの来訪者の割合が大きい。

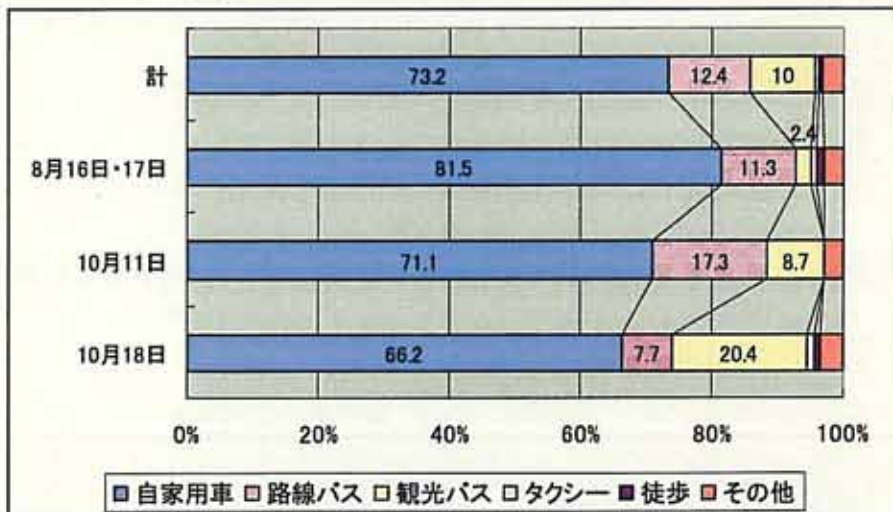


図6 回答者の利用交通手段（調査日別・総合）

(3) 利用ルート

1) 出発地点・終着地点

今回の大台ヶ原での利用ルートを明らかにするために、「出発地点」「終着地点」「立ち寄り地点」を質問した。

出発地点は無回答を除くと99%が駐車場であり、「その他」の3票はすべて筏場道方面であった。終着地は無回答を除くと98%が駐車場であり、「その他」としては大杉谷方面が5票、筏場道方面、河合・木和田方面が1票ずつあった。駐車場を出発・終着地としてコースを周回している人がほとんどであることが分かった。

表1・図7 出発地点

出発地点	計
駐車場	429
その他	3
計	432

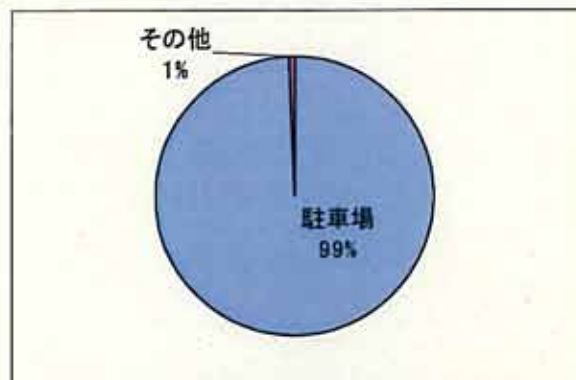
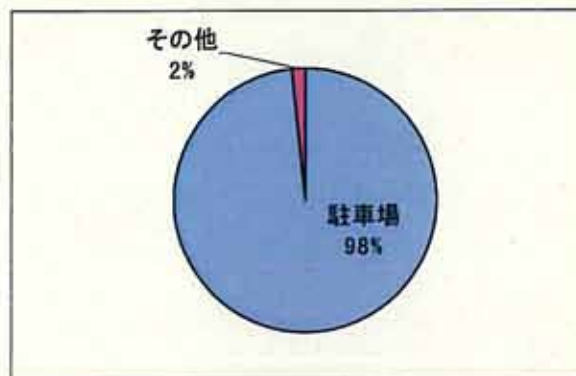


表2・図8 終着地点

終着地点	計
駐車場	409
その他	7
計	416



2) 利用ルート

立ち寄り地点から回答者の利用ルートを推定すると、東大台を利用する人が圧倒的に多いことが分かる。天候が悪い日には駐車場のみの滞在も多い。西大台の利用は10%以下である。

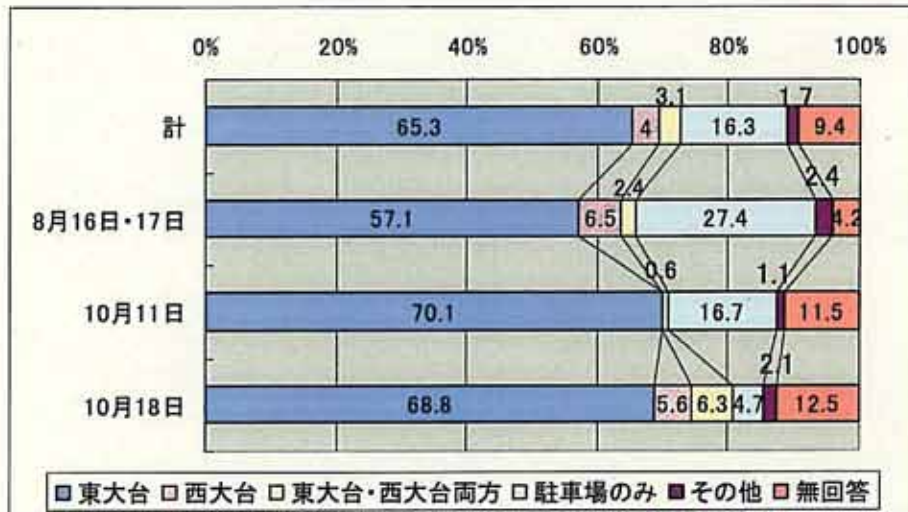


図9 利用ルート別人数（調査日別・総合）

2) 立寄り地点 ①東大台

東大台利用者が東大台の各地点に立ち寄る割合は以下の通りであった。

主要立寄り地点別に見ると、日出ヶ岳、牛石ヶ原、正木ヶ原、大蛇嶺、正木峠が半数を占め、シオカラ谷への立ち寄りには50%を下回るもののそれほど差はなく、周回ルートとして利用されているといえる。

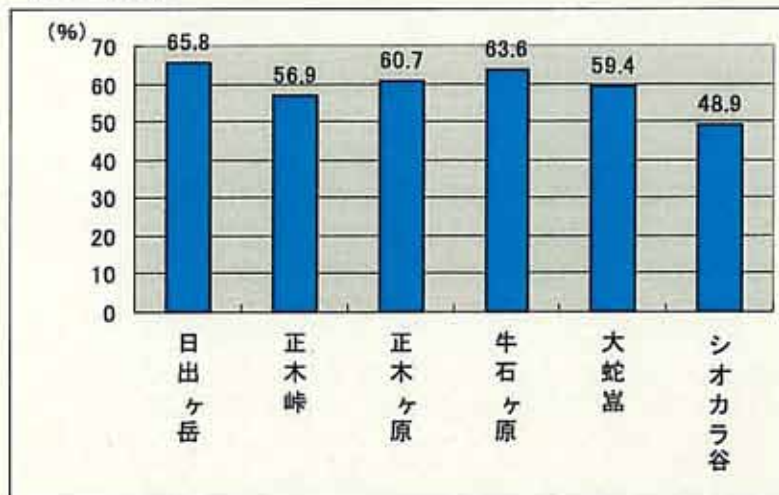


図10 東大台利用者が訪れる地点 (313票、複数回答)

次に西大台利用者と苔探勝路のみの利用者を除く東大台の利用者について立寄り地点から利用パターンを分類すると以下ようになった。

平均立寄り箇所数は3.8箇所、全体の3分の1の利用者がシオカラ谷～日出ヶ岳までの広い範囲を周回利用している。残りの3分の2の利用者は部分利用であり、この中では日出ヶ岳～正木ヶ原の範囲内での利用が最も多い。なお、1箇所のみの立寄りを回答した利用者は全体の15%ほどであるが、大半は日出ヶ岳のみの往復利用であった。

利用パターン	%
シオカラ谷～日出ヶ岳までの広い範囲を周回利用	32.7
シオカラ谷を除き、日出ヶ岳～大蛇嶺までを広く利用	11.6
シオカラ谷～正木峠で複数箇所を利用	19.1
大蛇嶺～正木峠で複数箇所を利用	9.9
日出ヶ岳～正木ヶ原で複数箇所を利用	10.9
日出ヶ岳のみを利用	13.9
正木ヶ原のみを利用	1.3
牛石ヶ原のみを利用	0.3
シオカラ谷のみを利用	0.3
合計	100.0

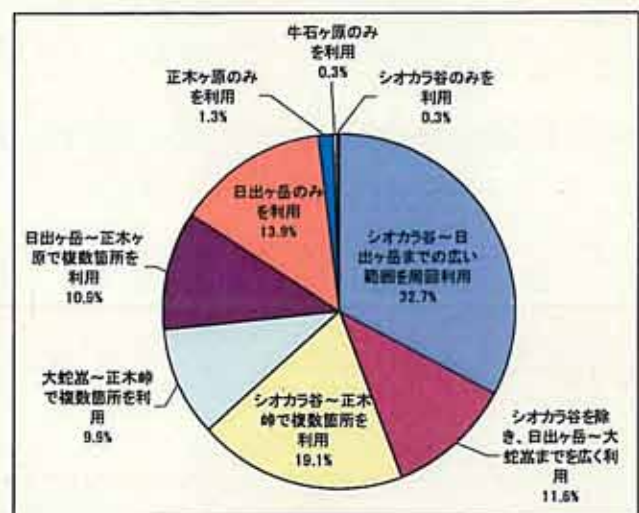


図11 立寄り地点による利用パターン分類

②西大台

西大台利用者が挙げた西大台の立寄り地点は以下のとおりであり、利用者の多くは開拓跡を利用していることから西大台全体を周回する形態の利用が多いことが推測される。

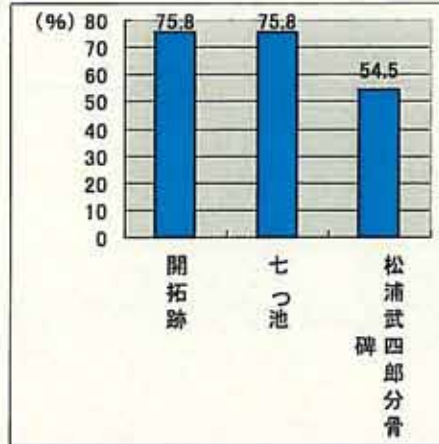


図12 西大台利用者が訪れる地点 (33票、複数回答)

次に10月18日に西大台の利用ルートについて聞き取り調査を行った結果を示す。これによるとグループ数で半数、人数で8割が開拓分岐または展望台までを周回する利用形態であることが明らかになった。

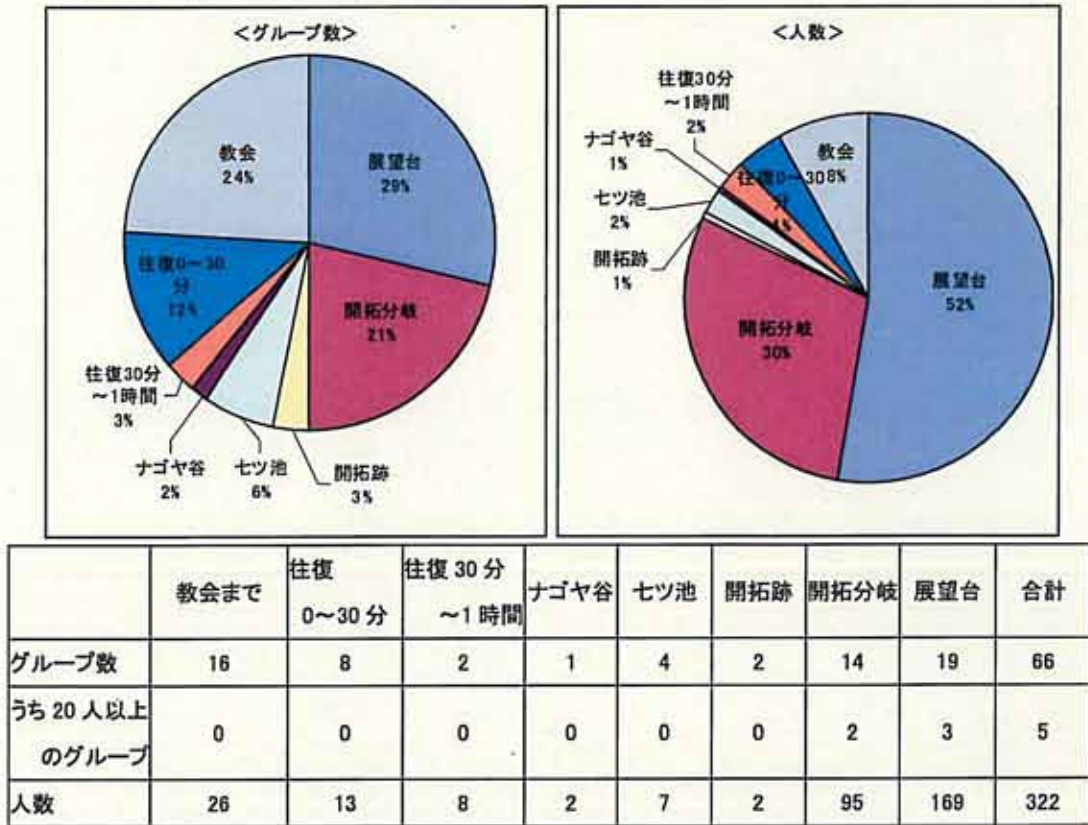


図13 西大台利用者の行動範囲 (10月18日聞きとり調査による)

(4) 来訪動機

大台ヶ原への来訪動機を3つまで選択してもらうと、「美しい景色を見ることができる」「原生的な自然に触れることができる」が多く、続いて「一度も来た事がなく興味があった」「空気がおいしい」「歩くコースの距離・難易度が適当である」「日帰りが可能」「自家用車でアクセスできる」などが挙げられている。

また、そのうち最も重要なものとなると、「原生的な自然に触れることができる」「美しい景色を見ることができる」の2つの占める割合が非常に多いことが分かる。続いて「一度も来たことがなく興味があった」「空気がおいしい」「歩くコースの距離・難易度が適当である」「自家用車でアクセスできる」などとなっている。

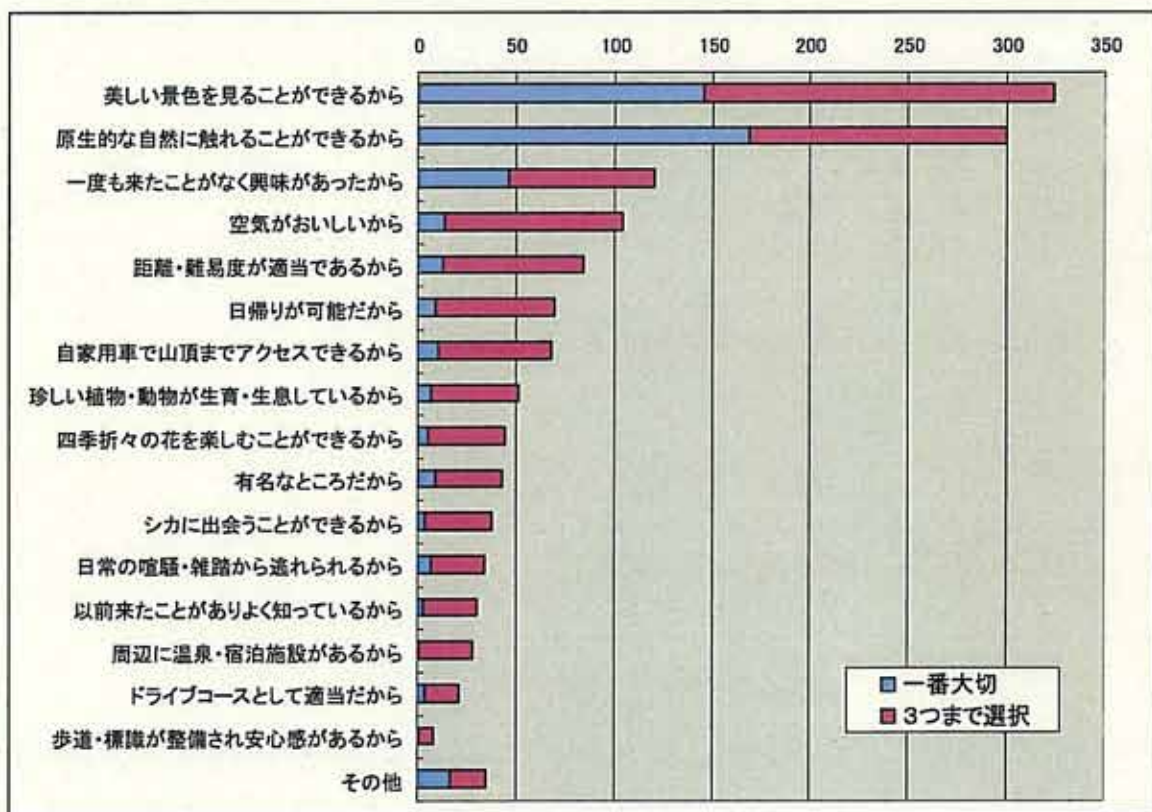


図14 来訪動機 (総合)

(5) 混雑感について

この項目については、混雑期を予想した設問であるため、混雑がみられた 10 月 18 日のヒアリングデータ（114 票）に限定して集計を行う。

1) 地点別の混雑による不快感の有無

ピーク時には利用者が集中して混雑を生じ、利用の質が低下する可能性が考えられる。そこで、各地点で感じた混雑感について答えてもらった。

集計は実際にその地点を訪れた人の票のうち、無回答のものを除いた上で行った（複数回答）。最も混雑感が高いのは駐車場であった。次に多いのは大蛇窟であり、混雑を感じている人が回答者の半数以上いることが分かる。

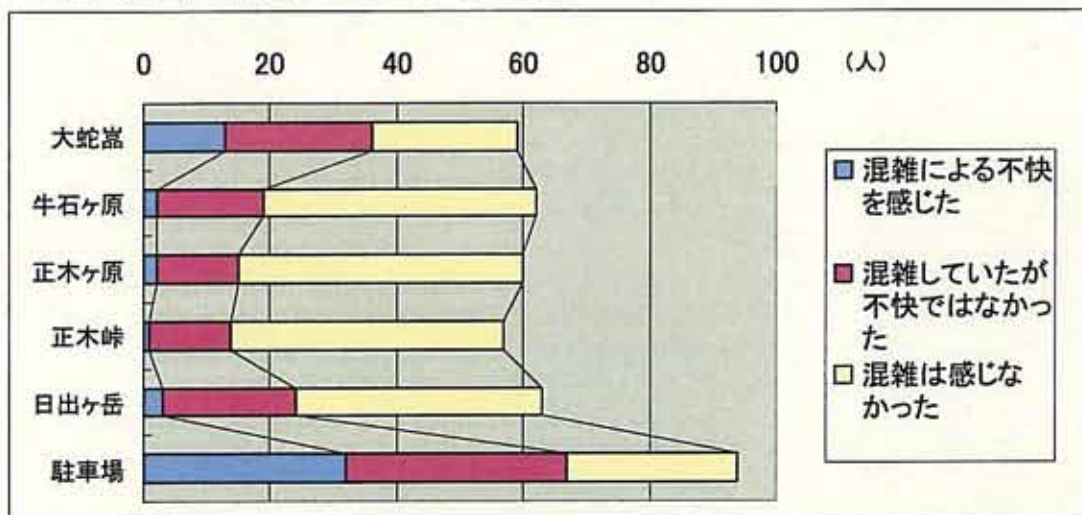


図 15 各地点での混雑感の程度

西大台については、項目として挙げた「ナゴヤ谷」「松浦武四郎記念碑」「開拓跡」などを訪れた人は 4 人と少なかったが、それらの地点に行っていない人も含めると、西大台の混雑感について回答している人は 28 人あり、そのうち 7 人が「混雑はしていたが不快ではなかった」、21 人が「混雑は感じなかった」と回答している。

2) 混雑による不快感の理由

実際にその地点を訪れ、混雑による不快感を感じた人に対し、不快感の理由を尋ねた。各地点を合計すると、最も多い不快感の内容は「周囲に人がいてうっとおしい」「大人数の団体がいてうるさかった」などである。駐車場を除くと最も混雑による不快感を感じる人が多い大蛇嶺では、「ゆっくり観賞(写真撮影)できない」「周囲に人がいてうっとおしい」「せまいところですれ違いにくい」などが挙げられている。

また、最も不快感を感じる人の多い駐車場について「その他」として挙げられた意見は、「駐車場区分がわかりにくい。空スペース多いように思う」「むずかしいと思いますが、広くしてほしい」「標識がない」「車のとめ方、アイドリング、自炊」などである。

表3 各地点での不快感の理由(10月18日データのみ)

	大蛇嶺	生石ヶ原	正木ヶ原	正木峠	日出ヶ岳	駐車場	西大台	計
周囲に人がいてうっとおしい	5	2	0	1	3	15	0	26
自分のペースで歩けない	3	0	0	0	1	1	0	5
ゆっくり観賞(写真撮影)できない	7	1	1	0	0	0	0	9
せまいところですれ違いにくい	5	0	0	0	1	4	0	10
大人数の団体がいてうるさかった	2	4	3	3	2	7	2	23
休憩スペースが確保できなかった	1	0	0	0	0	7	0	8
その他	2	2	1	1	1	14	1	22
計	25	9	5	5	8	48	3	103

3) 来訪者の混雑感

(5) -1) の質問に関して、

1箇所以上の地点で「混雑による不快を感じた」人⇒「混雑感あり・不快感あり」

1箇所以上の地点で「混雑は感じたが不快ではなかった」人⇒「混雑感あり・不快感なし」

どの地点においても「混雑を感じなかった」人⇒「混雑感なし・不快感なし」

として再分析すると、図14のようになる。駐車場も含めた上記7箇所で見ると、来訪者全体のうち76%が混雑感を感じており、そのうち39%がいずれかの地点で混雑感とともに不快感を感じている。一方、どの地点においても混雑感を感じていない人の割合は20%である。

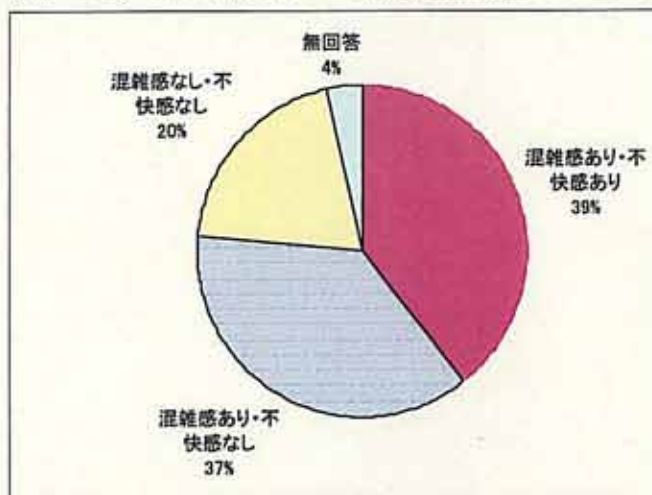


図16 全体としての混雑感・不快感の有無

前述のように、駐車場において混雑感を感じる人が多いため、駐車場を除いて集計を行うと図15のようになり、混雑による不快感を感じる人は15%となる。

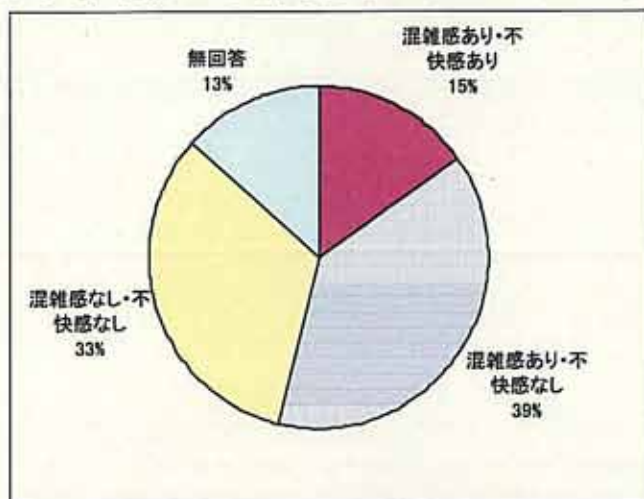


図17 駐車場以外の地点全体での混雑感・不快感の有無

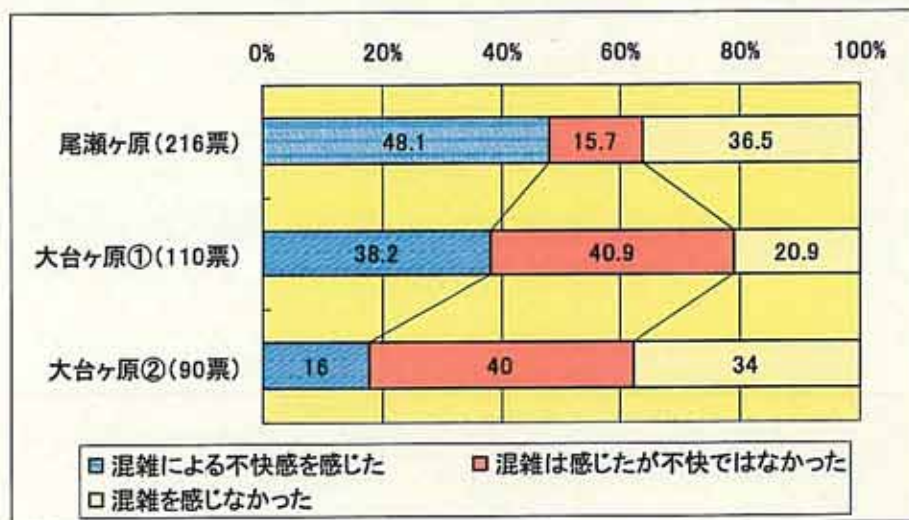
■尾瀬ヶ原における混雑感調査¹⁾との比較

日光国立公園の尾瀬ヶ原において行われた混雑感に関する調査の結果と今回の調査結果の比較検討を試みた。上述の図 15 のように、大台ヶ原の各地点において混雑感を感じた人の割合は比較的少なかった。しかし、どこか少なくともどこか一つの地点について混雑を感じた人の集計（大台ヶ原①）で比較をすると、下表のようになり、混雑を感じた人の割合は尾瀬ヶ原のピーク時よりも高くなる。多くの人々が混雑感を感じた駐車場を除いたデータ（大台ヶ原②）では混雑の有無は尾瀬ヶ原の割合に近くなる。また、大台ヶ原では、「混雑は感じたが、不快ではなかった」という回答の割合が高い。尾瀬ヶ原では「混雑による不快感を感じた」という回答が多いが、大台ヶ原では駐車場を除けばその割合はあまり高くない。

※大台ヶ原①は全地点での混雑感を総合。大台ヶ原②は駐車場での混雑感データを除いて集計。

表：混雑感の比較

	尾瀬ヶ原(216票)		大台ヶ原①(110票)		大台ヶ原②(90票)	
	人	%	人	%	人	%
混雑を感じなかった	79	36.5	23	20.9	34	37.8
混雑を感じた	137	63.4	87	79.1	56	62.2
混雑は感じたが不快ではなかった	33	15.7	45	40.9	40	44.4
混雑による不快感を感じた	104	48.1	42	38.2	16	17.8
合計	216	100.0	110	100.0	90	100.0



図：混雑感の比較

¹⁾ 田村裕希・他：尾瀬ヶ原の木道上における利用者間の距離と混雑間及び混雑不快感との関連性、ランドスケープ研究 66 (5), 2003

(6) 利用マナー

1) 禁止行為の認識

大台ヶ原において禁止されている行為である「焚き火」「植物の採取」「歩道外への立ち入り」「ゴミの投棄」「ペットの持ち込み」「シカへの餌やり」「コンロの使用」のそれぞれについて、禁止されていることを知っているかどうか質問を行った。

「ゴミの投棄」や「植物の採取」については禁止行為であるという認識が比較的高いが、「ペットの持ち込み」が禁止されていることについては、認知度が50%に満たない。

(「焚き火」、「コンロの使用」については10月の調査のみの設問であり、有効回答数302、その他の設問については有効回答数467～468である)

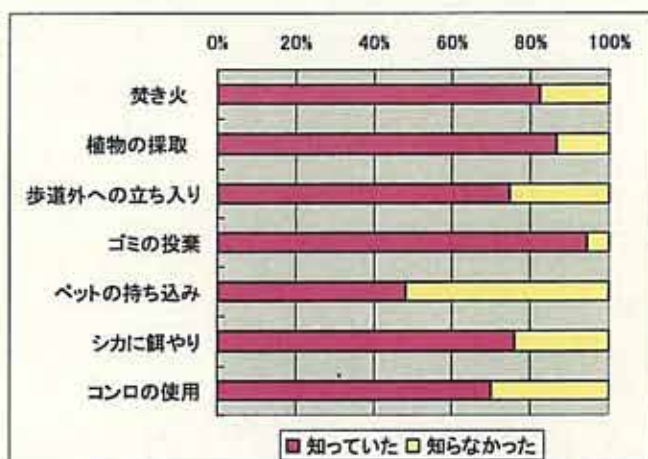


図18 禁止行為の認識の有無(総合)

2) 禁止行為とする必要性の認識

上記の禁止行為について、禁止とすべきか否かについて質問した。上記設問と比較すると、禁止行為であるという認識がない人でも、禁止の必要性を認識しているといえる。「コンロの使用」に関して「禁止すべきでない」と回答した人が10%を越え、比較的割合が高い。(これは10月の調査のみの設問であり、有効回答数は272～279である)



図19 禁止することの是非(総合)

3) 禁止行為の目撃の有無

上記の禁止行為について、実際に目撃したかどうかを尋ねた。ここでは晴天であった10月18日と雨天の10月11日のデータを比較した。11日については駐車場のみの利用者も多かったため目撃率が低いと考えられるが、晴天時には利用者全体の70%以上の人々が「ペットの持ち込み」を目撃、「60%以上の人々が歩道外への立ち入り」を目撃している。両日ともその2項目が最も多く、次いで「コンロの使用」の目撃率が比較的高い。

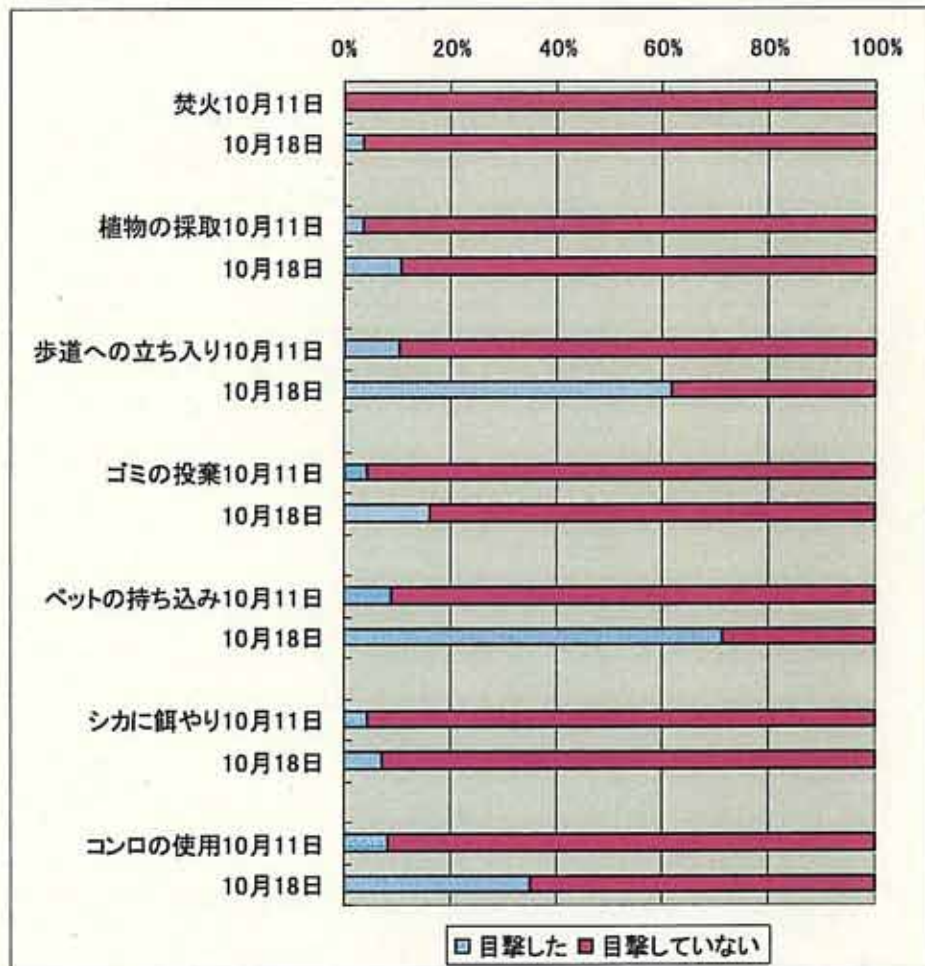


図20 禁止行為目撃の有無 (比較)

4) 禁止行為の目撃場所

禁止行為の目撃場所については、場所ごとに項目に特徴が見られる。

ペットの持ち込みはどの地区でもよく目撃されているが、駐車場、牛石ヶ原、正木ヶ原、日出ヶ岳などでは特に多い。また、牛石ヶ原、正木ヶ原では歩道外への立入を目撃した人が非常に多い。コンロの使用は牛石ヶ原で最も多い。

表4 禁止行為の目撃場所（人）

禁止行為	駐車場	シオカラ谷	大蛇ヶ原	牛石ヶ原	正木ヶ原	正木辻	日出ヶ岳	開拓跡	七ツ池	ナゴヤ谷	その他	計	その他
焚き火	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	3	
植物の採取	1	1	0	2	0	0	1	2	0	0	3	10	ドライブウェイ(2)、大杉谷への途中
歩道外への立ち入り	5	9	7	32	31	18	10	2	3	4	4	125	尾鷲辻、ドライブウェイ(1)、全体(2)
ゴミの放棄	5	6	4	5	3	3	7	5	1	1	3	43	尾鷲辻、ドライブウェイ(1)、全体(1)
ペットの持ち込み	25	18	13	28	25	18	30	3	2	3	12	177	全体(6)、中道(2)、山の家(2)、ドライブウェイ(1)、土倉古道(1)
シカに餌やり	1	0	0	6	6	1	0	0	0	0	1	15	尾鷲辻(1)
コンロの使用	5	6	0	13	4	0	9	1	0	1	12	51	大蛇ヶ原・牛石ヶ原間(4)、尾鷲辻(3)、ドライブウェイ(2)、山の家(1)、他(2)
計	42	40	24	87	70	40	57	14	6	9	35	424	

5) 各種掲示板的効果

環境省で設置している各種の掲示板的効果について質問した。「見ていない」という回答を除くと、「効果があった」「少し効果があった」と答える人の割合が非常に高い。自由記述の項目にも掲示板的増設を求める声も多く、関心が高いと言える。「見ていない」との回答については、天候不順により周回コースを歩かなかった人が多いことも要因であると考えられる。

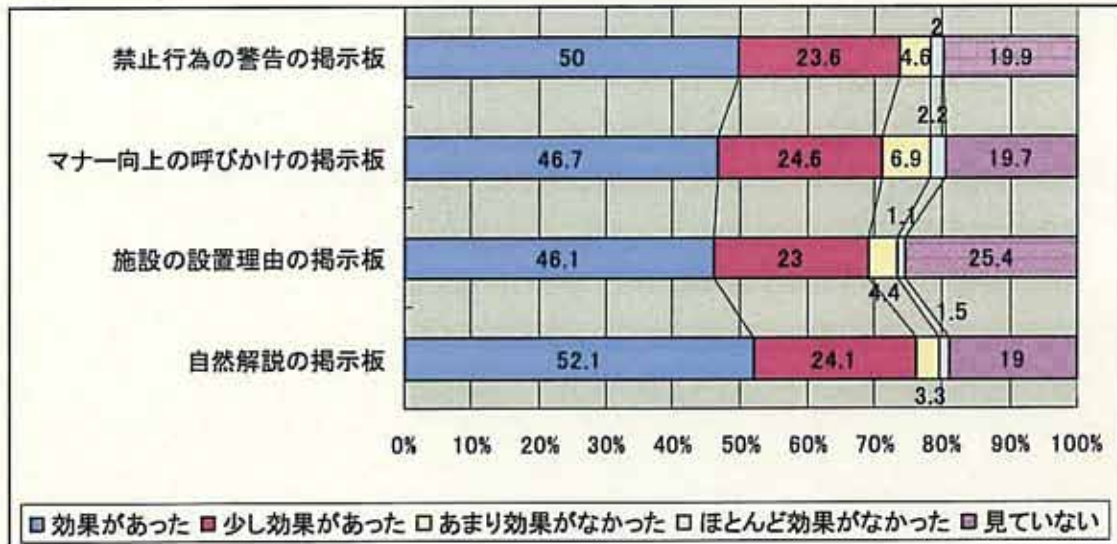


図 2 1 掲示板的効果についての評価（総合）

6) 啓発手法

利用者にマナーを守ってもらうための手法としてどのようにすべきかという問いに対しては、「標識、案内板」「巡回」「展示、パンフレット」などを求める声が多い。その他の意見としては、「個人の利用意識向上（7票）」、「入山制限・入山料の徴収（3票）」などが挙げられた。他には「上北山村のホームページでの情報提供（1）」、「旅行会社への注意（1）」、「入山前の解説ビデオ視聴の義務化（1）」、「マナー啓発を書いたゴミ袋の配布（1）」などの意見が挙げられた。

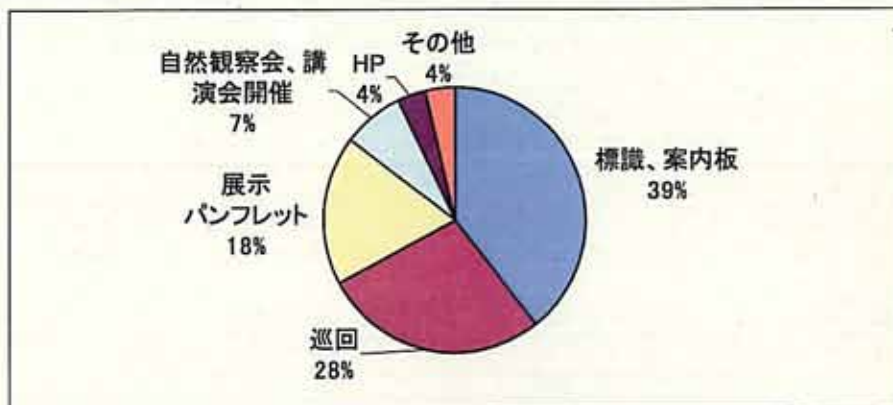


図 2 2 望ましい啓発手法（総合）

(7) 利用適正化対策

1) 規制の必要性と規制の内容(この項目は10月11日、18日(計318票)のみ)

ピーク時の過剰利用による交通問題については、約83%が何らかの規制の必要性を感じていることが分かった。この設問では、天候不順で混雑が少なかった10月11日の調査でも85.6%の人が「必要である」と答え、当日の混雑感の有無とは関係なく、規制を必要と認識する人の割合が高いことが分かった。

何らかの規制が「必要である」と答えた人に対する規制内容の質問には、「マイカー規制と麓からのシャトルバス運行」が約51%と半数以上を占めた。次いで「バス利用誘導」が20%、「入山人数制限や利用制限区域を定める」が16%、「マイカー規制と徒歩での利用に限る」が6%であった。

その他の意見には「違法駐車を取り締まり」「通行料を徴収する」「入場料を取る」「駐車場を広くする」「マイカーの乗り入れ禁止は昼間のみでよい。夜間の乗り入れを自由に」などがあった。

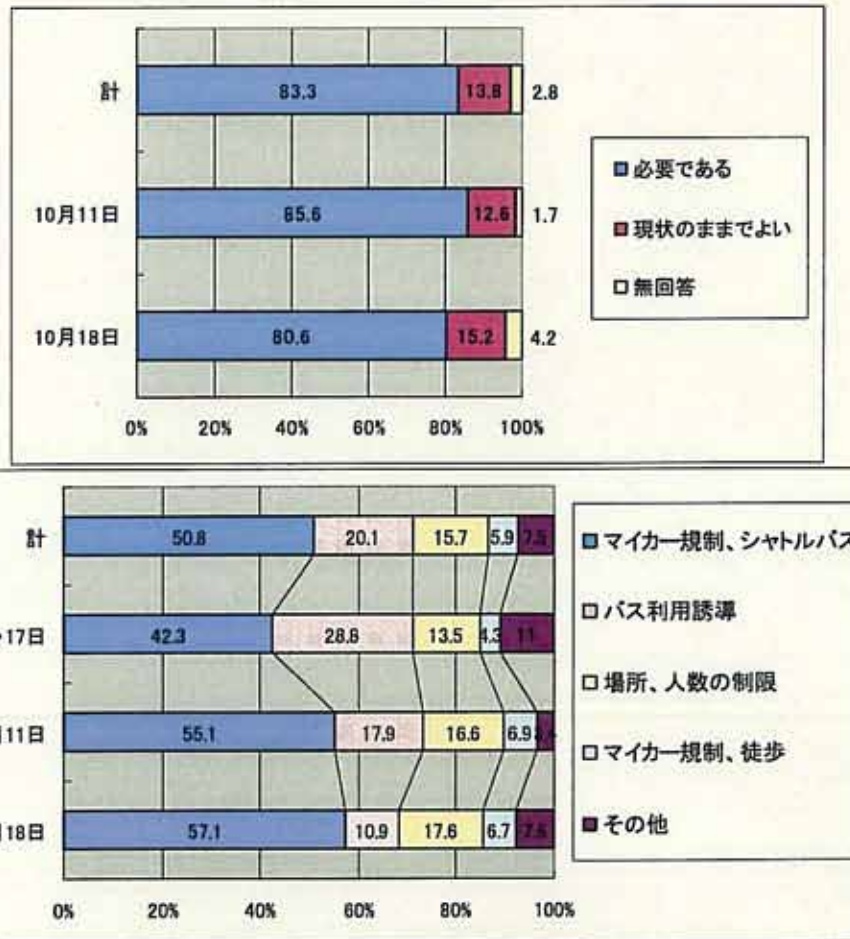


図2-4 必要な規制の内容 (調査日別)

2) 規制時の行動予測

予定日にマイカー規制や利用者制限が行われていたらどうするか、という質問に対しては、総合すると約63%の人が「予定通り訪れる」と回答している。

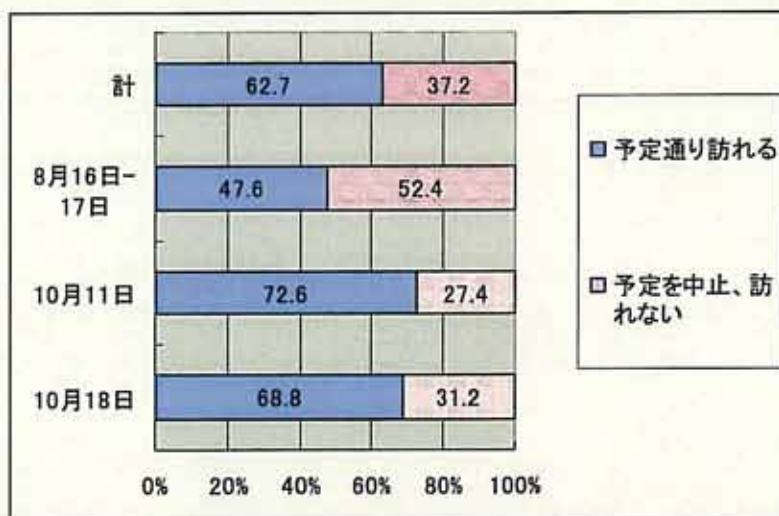


図25 規制時の行動（調査日別・総合）

⇒ 「予定通り訪れる」人の来訪手段

「予定通り訪れる」と答えた人にその場合の来訪手段を尋ねると、60%近くが「マイカーとシャトルバス」の組み合わせを選択した。また、「もともと電車・バス利用であったため変化がない」「マイカーを電車・バスに変更」を合わせると公共交通を利用して訪れるという人が30%を超える。

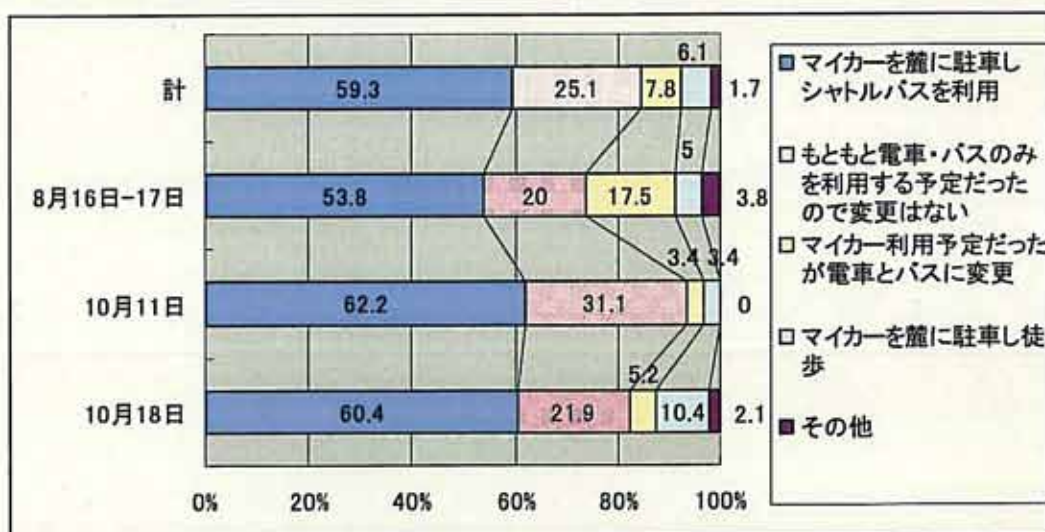


図26 規制時に来訪する場合の利用交通手段（調査日別・総合）

⇒「予定を中止・変更する」人の行動

一方、「予定を変更する」と回答した人に対して、日程を延期するのか中止するのかという行動予測をしてもらったところ、「予定を延期して規制のない日に大台を訪れる」という人が80%を超えるのに対し、「予定を中止する」人の割合は小さかった。

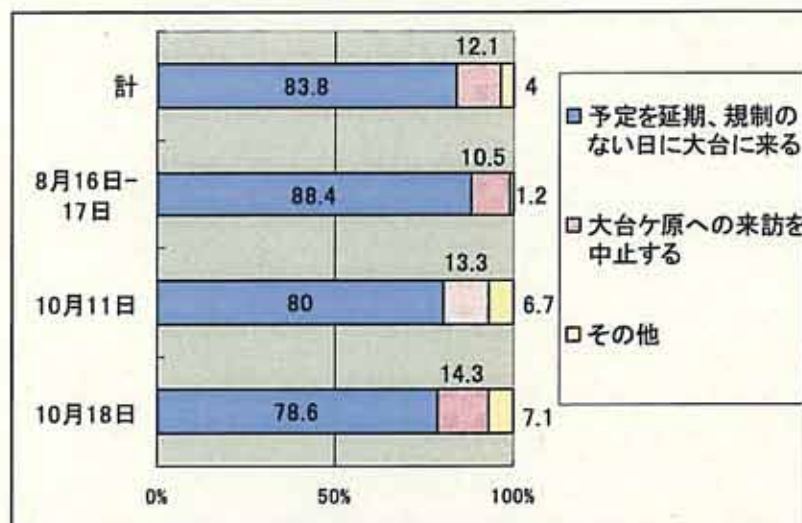


図 2 7 規制時の計画変更（調査日別・総合）

【参考】 アンケートの結果に基づく需要変化に関する機械的な試算

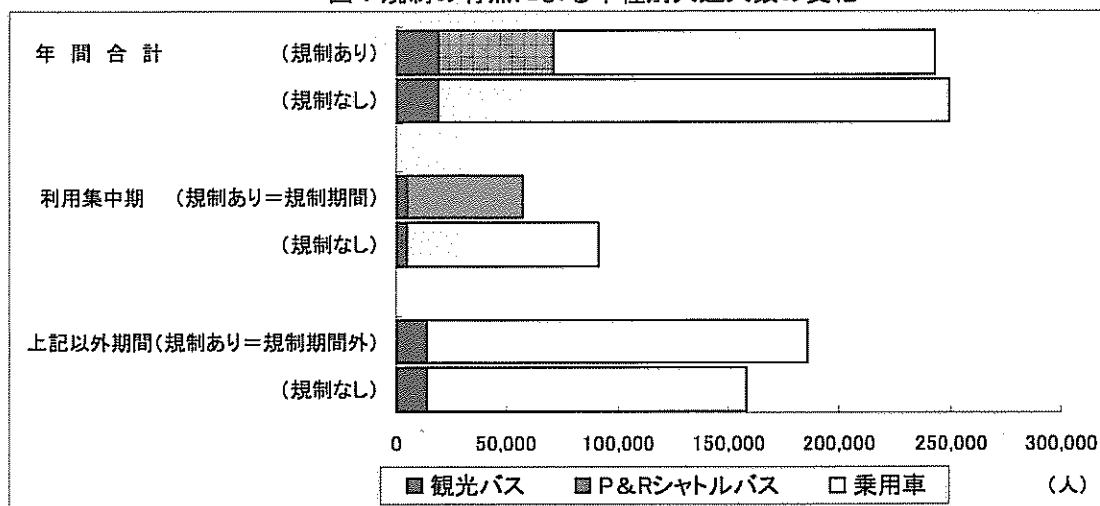
アンケートの結果に基づき、ピーク時の期間限定の交通規制を行った場合の需要の変化（平成14年度調査結果と比較）について以下の条件で機械的に試算を行った。

- ①ピーク時に期間限定の乗用車の乗り入れ規制とパーク&シャトルバスライドを実施する。（観光バスは規制対象外とする）
- ②規制期間は「ゴールデンウィーク、盆、紅葉期（10月～11月初め）の全土日祝日」（年間22日）に設定して考えることとした。
- ③アンケート結果（図26、図27）から、「乗用車による入込人数は規制期間中4割減少するが、そのうちの8割は規制期間外に乗用車で来訪する」と仮定。
- ④ただし、観光バスによる入込人数は規制の有無によって変化しないものとする。

試算の結果、規制の実施によりピーク時（＝規制期間）の入込人数は4割減少し、ピークカットの効果が高いことがわかる。一方、規制期間外の入込人数が17.4%増加するため、年間の入込人数は2.8%減にとどまる。

これらはアンケート結果に基づく機械的な試算結果であるが、実際の需要予測には、規制導入や自然再生の取組の推進による価値向上がもたらす利用者増加効果を加味する必要がある。※この点では上高地等における実例について分析が必要である。

図：規制の有無による車種別入込人数の変化



		観光バス	P&R シャトルバス	乗用車	合計	増減
平成14年度 入込人数	年間合計	19,125	0	230,364	249,489	[100]
	利用集中期	5,075	0	(A) 86,184	91,259	(100)
	上記以外期間	14,050	0	(B) 144,180	158,230	<100>
規制した場合の 入込人数の 推計	年間合計	19,125	51,710	171,759	242,594	[97.2]
	利用集中期 (=規制期間)	5,075	51,710 (A×0.6)	0	56,785	(62.2)
	上記以外期間 (=規制期間外)	14,050	0	171,759 (A×0.4×0.8+ B)	185,809	<117.4>

【自由記述】

アンケート項目のうち、自由記述の回答は以下の通りであった。

設問12：大台ヶ原の自然環境の保全・再生と利用ならびに学習についての意見

8月16日・17日

■自然環境について（学習・啓発）

①学習

- ・各自が自然を大切にしてほしい。自然はみんなの財産であるから。
- ・自然はいつまでも残しておかないといけないと思うが、実感が湧かず、これから自身、勉強していかないといけないと思う。
- ・すべての利用者がもっと自然について考えるときだと思います。
- ・一人一人の自然を大切にしようとする意識が重要だと思います。
- ・自然を破壊しているのは、人間ではなく、鹿だと思います。大台を訪れる人は自然を愛する人ばかりだと思いますので過度の練習は不要と思います。
- ・自然を大切にしたい。協力できることがあれば環境保護のために協力したいと思う。
- ・自然を大切にしたい。
- ・自然観察会の人達と一緒にいろいろな話を聞きながら散策をする。

②啓発

- ・政府が国立公園の大切さをもっと様々な機会（学校など）で知らせて、皆の意識を高める努力をして欲しい。
- ・次の世代を担う子供たちにも、自然のすばらしさや厳しさを学ぶ機会をつくってあげ、そのために自然環境にとってどのようなことがいいのかを考えることが必要である。
- ・こんなにすばらしい自然を、学校やイベントなどで紹介し、自然保護の意識を高めるようにしたいですね。
- ・私を含め、自然に対するマナーが良くわからない人が多数いると思います。いかに自然が大切かということパンフレット等で知らせていただければより良い自然が守れるような気がいたします。
- ・学校での総合学習などに取り入れたらどうでしょうか？

■マナーについて

- ・ゴミがなかった。
- ・どんな小さなゴミでも拾うようにすればよい。
- ・ゴミの問題などを徹底して欲しい。
- ・ルートに飲み物以外のガム等の食物を持ち込みはゴミ捨ての原因につながると思います。
- ・一人一人が自然のマナーに気をつける。
- ・最近自分ひとりならいいか、とマナーを守らない方が多いので、テレビの宣伝等で環境保護をうたえるといいと思います。

■現状維持・整備について

- ・とりあえずは現状のままでよい。
- ・むやみに自然破壊しないほしい。
- ・環境は保たれている。
- ・このまま自然が壊れないように、維持して欲しい。
- ・大台ヶ原をPRして人が押し寄せるよりは、今のままでよい。
- ・なるべく自然のままで残しておいて、少し手を入れるようにしていけばよいと思う。
- ・自然保護という言葉のもとに必要以上に人工の手を加えすぎの点もある。保護区域は完全に自然の成り行きのままにすべき点もあると思います。
- ・観光地のアピールはそこそこにひかえ、子供や自然に自ら関心・興味のある方に接していただき、良さを伝え、モラルと自然に対する優しさを持って来山してもらえたら、大台ヶ原にとっても他の自然にとっても、人間の心にある感を良くできるのではないのでしょうか。

■規制について

- ・車で上までこられるという便利さはあるが、自然を守るためには規制もやむをえない。
- ・もし大台ヶ原の自然を保護するなら、東コース、西コース等どちらか1年間立ち入り禁止にしてはどうですか？
- ・(シャトルバスについて)あまり乗り換えが多いと困る。
- ・日本は国立公園については非常に甘い。自然は一度壊れたら元に戻るのにすごい年月が掛かる。本当の意味で自然を大切にすれば、もっと立入を制限すべきだ！こんな標高1500mの高地にマイカーで来れるなどは許されない事だ。
- ・犬はだめなら、入り口で禁止すべきです。

■保全対策について

- ・シカ等の確実な頭数管理(定期的な頭数削減)。
- ・植生保護用の柵を大型化、多数化。
- ・枯れ木の保護に力を入れていただきたい。

■設備の強化について

①看板の増設

- ・歩きながらの勉強できる看板がいっぱいあればいいなと思いました。
- ・コースによるが、見所のPRが少ないように思った。植物などの名前など、できる限り表示してもらったほうが興味もUPすると思う。
- ・できるだけ自然のままの姿を残して欲しいと思う反面、掲示板や表示の必要性も思うので、そのバランスが難しい。調和の取れた表示などを配慮していただけたらありがたいです
- ・立看板数を増やし、環境保護を喚起させる。
- ・西大台に看板をつけて欲しい。行ってみたいから。
- ・道がわかりにくいのでロープなどに目印をつける等の処置をしてほしい。

②道の整備

- ・遊歩道のさらなる整備。
- ・日出が岳の階段が歩きにくかった。
- ・ぬかるみが多い。道路、歩道をよくして欲しい。
- ・尾瀬の諸規則のようにもうすこし厳しくなってよい。今後、高齢者のものが増すであろう。こういう人の扱いを考えなくては。健康支援。道路整備等。
- ・歩道が歩きにくい。
- ・景観の良い所の木道の充実をはかる。(三津河落等)
- ・歩くルートが絞られればいろんな道ができなくてすむと思うので、もう少し舗装なり手すりなどがあればいいなと思いました。

③トイレの整備

- ・途中に洗面所があればよい。
- ・剣山では頂上でのトイレの問題があり、ここは散策ルートにはトイレを設置していないのはいいのですが、(入り口にでも) 注意板等が欲しかった。尾鷲辻からの帰路大変でした。
- ・トイレの使用について、1回100円というのは高額だと思う。1日100円までまけて欲しい。
- ・トイレの有料化

■経費について

- ・駐車場代を取る。
- ・ドライブウェイを有料にし、それを大台ヶ原の自然保護に役立てる。
- ・パトロールや山の歩道のメンテ要員を予算のゆるす限り増やすべきで、予算が不足の場合は、入山料(¥1000/1人程度)を取るなどの手を打ったらどうでしょうか。

■サービスについて

- ・地図が有料になっていますが、大きな地図を出すサービスがあっても良いのではないかな。
- ・ビジターセンターはすばらしかった。無料であり、映画もすばらしい

■その他

- ・30年前に来たが、森林の様子が変わっているのを見てびっくりした。
- ・思ったより人が少ない。
- ・20年来毎夏、大台ヶ原へ来ていますが、来場者が激減しているのではないですか?→不況の影響なのか、若者が来なくなったのか?
- ・冬期にも来られるようになれば良い。
- ・自然環境、生態系がこんなに崩れているとは知りませんでした。
- ・国道からの入り口が少し狭いのでわかりづらい。もう少し何とかしてください。
- ・帰り道で温泉に寄りたいため荷物が多くなるからバスは使いたくない。
- ・わりばしの使い捨てはもったいない。普通のおはしで洗って使いまわしてほしい。
- ・大台荘の食事(朝・夕)について一山の上でのことで大変だと思うし、また宿泊料金も安いから仕方ないと思うが、夜のおかずがいつも同じなのはどうかと思う。朝は満足していますが、夜の献立はもっと工夫してほしい。

10月11日

■ 自然環境について (学習・啓発)

①学習

- ・ボランティアを集い、ゴミの収集、登山道の整備復旧など自ら体験する機会を作ること。

②啓発

- ・もっと自然環境の大切さを国民に子供教育から訴える。
- ・一人一人が常識的に考えるような教育が必要。
- ・大台ヶ原を守る活動をされていることについて、アピールすべき。
- ・現地で実際にボランティアの人たちが環境保全の為に巡回したりがんばっている姿を見たら、利用者も意識が高まると思う。看板だけでは不十分な面もあると思う。

■ マナーについて

- ・ゴミは必ず持ち帰る。植物は持って帰らない。
- ・いつまでも良い自然環境が保てるように利用者のマナーが大切だと思う。山中に置かれたゴミなどが落ちているので残念です。次にまた来たときには美しい大台ヶ原のままであることを期待しています。

■ 現状維持・整備について

- ・今の自然を大切に守ってほしい。
- ・ふもとの森林伐採や道路による土砂崩れによる土の流出が思いやられる。
- ・少しぐらい不便でも、環境を守ることが重要です。
- ・近畿地方の代表的な自然なので大切にしていきたい。

■ 規制について

- ・環境の保全を考えるならば、もっと様々な制限をした方がよい。マイカー禁止、人数制限、トイレ、お湯の工夫など。来易い事はいいかもしれないが、このまま放置するなら半世紀もたたないうちに、観光資源も枯渇する。
- ・コンサートでさえ持ち物検査をするのだから、山に入る前にもチェックが必要だと思う。コンロの持込などは事前に防げる。
- ・ドライブウェイという名の元ではマイカーの制限は難しいと思われるが、禁止し他の交通手段を考え、排ガスによる自然破壊を少なくすべきである(車での進入を一台でも少なくする)。
- ・エリアへ入る人員の制限(トータル数、期間など)→森林環境復元可能な範囲まで。

■ 保全対策について

- ・駐車場までいけるのは、年寄り・子供にとっても便利な面もあります(近くまでのシャトルバス制にしてもいいと思う)。人数を決める方向でしたら良いと思います。
- ・自然を保護する努力を今後も続けてほしい。
- ・自然環境を守るためには制限すべし!
- ・鹿の頭数を減らして、森林を守ることが必要かも。

■設備の強化について

- ・ 散策途中に雨宿り用小屋がほしい。
- ・ 六甲山上ほど→がない。雨の日で標柱が目に入らなかった所以もあると思うけど。

■経費について

- ・ 単に徴税による環境事業から税に代えて勤労奉仕をその対象にすべきではないか。

■サービスについて

- ・ 雨情報が欲しい。
- ・ 公式ホームページで知らせる。山歩きの本を出版する。

10月18日

■自然環境について（学習・啓発）

①学習

②啓発

- ・ 小・中の教育の中で、学校も親も指導すべき。
- ・ 自然環境保護、保全のため、その必要性、大切さについて一層の啓発を願う。
- ・ ビジターセンターの自然観察会は夏場だけでなく、もっと増やしてほしいと思います。山に入れば、人もひとつの生命体、ほかの生き物と同じという感覚を持つことが大切なのではないかと思います。

■マナーについて

- ・ マナーを守るよう、厳しく指導。
- ・ ゴミを持ち帰ってほしい。常識を持ってほしい。

■現状維持・整備について

- ・ できるだけ、自然を守って、現在の状態を保てるように。
- ・ 森に安易に入れないようにする。便利にしすぎない。

■規制について

- ・ 人数制限が必要。
- ・ シーズンは人の数を制限したらどうですか。はがきで申し込んでO.K.の人のみとか。
- ・ 自然と触れ合えるチャンスが減ってしまうのは残念ですが、なかなかマナーを守らない人がいる以上、ある程度の制限は仕方ないかと思います。
- ・ 尾瀬のように徹底してやるべき
- ・ 有料化が必要。
- ・ マイカー規制を厳しくすべきである。
- ・ 夜間来る人は、本当に自然が好きな人で、制限する必要はないと思う。
- ・ 冬の閉山は正解だと思います。
- ・ 客を制限したいのであれば、最終的に乗鞍、上高地方式にするのがベター。

■保全対策について

- ・バスが待っている間呼びかけのアイドリングを止めさせるべき。
- ・自然環境の保全のために、もっと人員を配置し、監視する必要がある。
- ・車が多い。大気汚染が心配。大気の調査をすべきだと思う。
- ・大台山頂付近の鹿の害は、伊勢湾台風の影響ほかいろいろいわれている原因ではなくて、大杉谷や本沢川周辺の伐採が原因と思う。自然林を復活し、鹿と分散させることが大切。

■設備の強化について

- ・歩道の整備（木道の設置）
- ・40年前と比べ、整備されていたが、反面寂しい気がした。
- ・①掲示板に目的地までの距離、時間を記入してほしい。②登りの急坂の表示もあればよい。
- ・石ころが歩きにくくしている。
- ・あまり看板を立てすぎると自然が損なわれるが、道標はもう少し立ててほしい。時々この道であっているのかと不安になることがあった。
- ・大台ヶ原の登山・観光客を増やす目的であれば、1日目は東大台をまわって、1泊して西大台をまわるコースを最も整備して、迷わない、まわりやすい環境にする。
- ・大台ヶ原としては大杉谷コースを本当の登山客用に管理し、東大台コースは制限より開放の方向がなりゆきであると思う。

■経費について

- ・保全費用がかかると思われるので、何らかの（入場料など）手段で、利用者から費用を負担してもらおうと良いと思う。
- ・トイレのペーパーは買うようにすれば経費がかからない。

■その他

- ・ダム完成で、大台ヶ原ドライブウェイ入口までの道路がよくなって客は増える一方だと思えます。特に中高年、女性向きの良いハイキングコースですから。（利便性）
- ・難しいですね。環境はもっとダイナミックなのかもしれません。なぜ、正木峠のトウヒの立ち枯れは再生していないのでしょうか。私は西大台が好きです。西大台の自然は守られているではありませんか。